

# 尾道薪能番組

六時

能「半部」への誘い  
あいさつ

吉田篤史

老松

仕舞

吉田和史

深野 貴彦  
吉田 篤史  
橋本 光史

火入式  
狂言

盆山

茂山良暢

山口耕道

七時頃

仕舞

鞍馬天狗

井上裕久

浅井 通昭  
勝部 延和  
吉浪 壽晃

能

吉田 潔司

半部

清水 利宣

石井 保彦  
曾和 尚靖

左 鴻 泰弘

立花供養

間 茂山 良暢

橋本 光史  
橋本 擴三郎

児玉 哲城  
深野 貴彦  
浅井 通昭

吉浪 壽晃  
井上 裕久  
勝部 延和

附祝言

終了 八時頃

能は室町時代より続く古典劇です。演者が謡う言葉に囚われないで下さい。六百年も昔の言葉で、解らなくて当然。言葉を理解しようとするのではなく、大まかなあらすじだけを頭に入れて御覧下さい。そして謡や囃子の旋律、また緊迫感を肌で感じて頂きたいのです。同じ日本人が創った劇、何か共感を得て頂けると幸いです。なお、お客様の静寂が大事な空間を作ります。その為に携帯電話はお切り頂くか、マナーモードに設定して頂きたく宜しくお願い致します。

吉田篤史

## 【能「半部」あらすじ】

京都紫野雨林院の僧(ワキ)が一夏の間に立花供養をしていると、ある日一人の女(前シテ)が来て白い花を供えたので、花の名をたずねると夕顔の花と答え、女の素性をたずねると、五条の辺りの者とだけ答え消え失せた。

— 中入 —

不思議に思った僧が五条に来てみると、荒れ果てた一軒の家に夕顔の花が咲いているので、源氏物語の昔を偲んでいると、半部を押し上げて女(後シテ)が現れ、この家での源氏の君と夕顔上との契り話などを語り舞を舞うが、夜の明け方に、僧の夢は覚める、という物語。

※立花供養という小書きがつくと、舞台正面に華が生けられ作物が変わります。今回は、池坊尾道支部 小林明先生に生けていただきます。

### 吉田 潔司

シテ方 観世流準職分  
重要無形文化財  
能楽(総合指定)保持者  
1942(昭和17)年生まれ



- ・幼少より京都にて井上嘉介師、父 吉田佳弘に師事。6歳にて初舞台。同志社大学在学中に井上師の内弟子として修行。
- ・昭和47年に独立。石橋・乱・道成寺・砧・求塚・清経(恋の音取)・正尊を開曲。
- ・吉田嘉謡社二代目社主として、平成4年より京都で「花の能」を公演するなどの演能活動の一方で、京都各所・尾道・福山・鞆に稽古場を持ち、謡曲・仕舞の指導を行っている。

### 吉田 篤史

シテ方 観世流準職分  
1974(昭和49)年生まれ



- ・幼少より京都にて井上嘉介師、祖父 吉田佳弘、父 潔司に師事。3歳「鞍馬天狗」花見にて初舞台。同志社香里中・高へ進学、同志社大学在学中に井上師の内弟子として修行。
- ・平成13年に準職分を取得し独立。石橋・乱・千歳を開曲。
- ・吉田嘉謡社副社主として、平成4年より京都で「花の能」を公演するなどの演能活動の一方で、京都各所・岐阜各所・東京・福山・広島に稽古場を持ち謡曲・仕舞の指導を行っている。

吉田後援会ホームページ <http://www.k5.dion.ne.jp/~hana-noh/>



真言宗泉涌寺派大本山 浄土寺(尾道市東久保町20-28) JR尾道駅よりバスで約6分  
※会場には駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用下さい。

山陽本線「尾道駅」から東行きバスで「浄土寺」下で下車。

